

はじめに

人は何のために生きるのだろうか。価値ある生き方とはどのようなものだろうか。

戦争の惨禍によって荒れはてた国土の建て直しに力を注いでから半世紀余り、一応の経済的安定を達成し、先進諸国の仲間入りを果たした今日、日本人は改めて生きることの意味を問い直す必要に迫られているように思われる。特にバブル経済の崩壊によって物質的欲望の空しさが明らかになってから、人びとは精神的な充足感、心の豊かさをいっそう強く求めるようになってきた。それは美術、音楽、演劇、文学などの優れた芸術作品に触れて感動したり、由緒ある古寺や旧跡を巡って歴史の思い出にひたったり、あるいは趣味を等しくする同好の士との交流を楽しんだり、さらには自ら創作、創造活動に参加するなど、いずれも広い意味で文化の領域にかかわるものである。これらさまざまな文化的活動がそれほどまで強く人びとを惹きつけるのは、文化こそ人間が人間らしく生きることの証しであるからにほかならない。その意味で、文化は価値ある生活を営むために、どうしてもなくてはならないものなのである。

とすれば、国や地方の行政組織も、文化の振興発展のための方策を講ずる責任があることは論をまたない。もちろん、文化を享受するにせよ実践するにせよ、その活動は参加者個人が主体であることは当然であるが、その活動のための施設や制度の整備、情報の蓄積と提供、必要な人材の確保など文化の社会的基盤を整備充実させることは、重要な責務と言ってよい。このたび、台東区が文化振興政策に取り組みされる運びとなったことは、きわめて慶賀すべきことである。

本懇談会は、台東区長の要請を受けて、区の文化政策についてさまざまな視点から議論を重ね、以下のような提言をまとめた。台東区におかれては、本提言の主旨に基づいて適切な施策を推進されるよう切に望みたい。

平成16年9月

台東区文化政策懇談会

会長 高階 秀爾